

青木繁「海の幸」記念館 友の会だより 第14号 2019(平成31)年1月1日

発行：青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会長：嶋田博信 副会長：小谷昭・島田吉廣 館長：小谷福哲（小谷家当主）

事務局長：愛沢伸雄（事務局：NPO法人安房文化遺産フォーラム）

〒294-0234 千葉県館山市布良 1256 青木繁「海の幸」記念館 ホームページ <http://aoki-shigeru.awa.jp/>

事務局 〒294-0036 千葉県館山市館山 1016-1 TEL&FAX:0470-22-8271 Eメール awabunka@awa.or.jp

開館日：土日（平日は事前の団体予約のみ）※維持協力金（入館料）：一般 200 円・小中高 100 円・友の会無料

*** 友の会会員募集中！ 年会費 2,000 円 郵便振替口座 00150-6-616201 青木繁「海の幸」記念館 ***

千葉県民の投票により、青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅は「ちば文化資産」に選定されました。

布良崎神社の初詣・願掛

お守り貝のみがき初め

平成最後のお正月、神話の里・布良崎神社で
霊峰富士に祈願をかけて、お守り貝を磨きませんか。

平成31年 元旦 13:00～15:00

1月2日～6日 10:00～15:00

*会場：布良崎神社集会所（館山市布良 379）

*参加費：お守り貝磨き 1人 1,000 円
願かけ文字彫り（追加）1,000 円



撮影：島田吉廣

★貝のみがき初め大会

1月13日（日）第一部 10:30 / 第二部 13:30

*会場：旧富崎小学校体育館（館山市相浜 282-1）

*参加費：上記に同じ（座布団・上履き・防寒具・タオル持参）



めらぼし

「布良星」～導きのお守り貝～

布良は、マグロはえ縄船発祥の漁村として古くから栄え、亡くなった漁師の魂は赤い星になるという伝説があります。冬になると南の水平線に輝くカノーブスは「布良星」と呼ばれ、時化を教えてくれる「導きの星」といわれています。中国では寿命が延びる「長寿星」とも呼ばれています。

◎ 参加費の一部は、文化財の保存・活用および
布良崎神社の神輿基金に充てられます。

主催：青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

NPO法人安房文化遺産フォーラム

問合せ：河辺 090-3218-3479・福田 070-2640-4257



おこなむちのみこと

「大穴牟知命」

青木繁（石橋財団ブリヂストン美術館蔵）

灼熱の岩で大やけどを負ったオオクニヌミノミコトを救うために、アカガイの女神とハマグリ（貝）の女神が貝の粉と母乳を薬として塗り、蘇生させる神話を描いた青木繁の作品です。布良はアメノミノミコトが阿由戸の浜に上陸した神話の里で、女神山のふもとに青木繁「海の幸」記念碑があります。

かい

「魁」～合格・成就のお守り貝～

「さきがけ」とも読むこの字には、「オオハマグリ」の意味があり、中国では科挙（官吏の試験）の合格者をさします。ハマグリ（貝）の英名はビーナスクラムといい、愛と美のお守り貝でもあります。

★講師：福田康孝氏 館山市（平砂浦）在住。20年にわたり貝磨きの技術を研鑽し、2006年にはフロリダで開催された貝芸術祭で日本人初のホビージュエリー部門1位を受賞。

友の会 バスツアー

***安房の美術散歩～鴨川・白浜・館山～**

3月19日(火) 出発: 8:20布良崎神社 8:25平砂浦ふれあいショップ 8:40南総文化ホール
解散: 15:50 // 15:45 // 16:10 //

- ・参加費: 友の会 2,000円・一般 3,000円(昼食代・入館料等含む) ※バス代は会より一部負担します。
- ・定員: 25名(先着順) 申込: 河辺 090-3218-3479 行程は事情により変更の場合もあります。
- ・行程: ① **鴨川市郷土資料館**: 講義・見学

房州ゆかりの画家や安房の三名工のひとり波の伊八などについて、美術史専門の学芸員より解説を聞き、所蔵作品を見学します。

② **江澤館** (画家ゆかりの宿): 見学・昼食

1931(昭和6)年、安井曾太郎は太海の江澤館に滞在し、4階の窓から「外房風景」を描きました。鴨川松島と呼ばれる風景は多くの画家に愛され、館内には向井潤吉・鈴木信太郎・野口弥太郎など多くの著名な画家の色紙が展示されています。



安井曾太郎
「外房風景」
大原美術館蔵

③ **下立松原神社** (寺崎武男絵画館): 見学

GWには、青木繁記念館と布良崎神社で寺崎武男原画展を特別公開の予定です。(4面参照)

④ **円光寺** (青木繁と福田たねが滞在): 見学

布良滞在の翌1905(明治38)年、青木繁と懐妊中の福田たねが伊戸に再来訪しました青木は、焼き釘を使って円光寺の板戸4枚に平砂浦の荒波を描いています。そのイメージソースになったと思われる波の伊八の欄間彫刻「波と龍」を見学します。



波の伊八 『龍と波』 円光寺蔵



青木繁 円光寺板戸『海景』個人蔵

⑤ **道の駅・南房パラダイス** (門扉レプリカ「海の幸」): 見学

【コースMAP】



開園中は気づきにくいのですが、門扉が閉じられていると「海の幸」を見ることができます。



◎ **友の会 会費納入のお願い** 年会費 2,000円

郵便振替口座 00150-6-616201 青木繁「海の幸」記念館

ささやかな民間運営のため、記念館の受付・展示・案内をはじめ清掃・庭園管理や記念碑周辺の草刈りなどは、ボランティアスタッフの奉仕により行なわれています。趣旨に賛同された支援者ネットワーク「友の会」は430名を超え、活動を支えて下さっています。皆様からいただいた会費やご寄付、維持協力金(入館料)は有益に活用させていただきます。(特典: 会報送付・土日の入館無料)

*** 青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅の催し ***

◇ ひなまつり 2月9日～3月24日 (開館は土日)

小谷家住宅に伝わる江戸期の高砂人形や昭和初期のひな人形と手作り吊るし雛など、賑やかな飾りを楽しめます。



◇ 寺子屋講座 第7回「小谷家住宅の四ツ目垣を作ろう」小池英憲氏 (樹木医)

3月7日 (木) 9:30～15:30 ※雨天は翌8日 (金) に順延 参加費無料

記念館の公開に向けて、四ツ目垣を作ってから3年が経ちました。風雨にさらされ少し傷んできたので、作り方を学びながら、皆さんで庭園整備をしたいと思えます。軍手・タオル等をご持参ください。



*** Report *** 青木繁オマージュ色紙展

当館運営を支援する目的で、10月6日～11月11日に開催された青木繁オマージュ色紙展では、15万円のチャリティ基金をいただきました。ご出展下さった19名の先生と、購入して下さいの皆様にご心より感謝申し上げます。

◎ 出品者 (50音順・敬称略)

- ・安達時彦
- ・安達博文
- ・入江観
- ・宇田川宣人
- ・小川幸治
- ・金井訓志
- ・川村良紀
- ・小林裕児
- ・武田光弘
- ・寺田和幸
- ・櫻井孝美
- ・佐藤一郎
- ・須藤美保
- ・光行洋子
- ・溝口七生
- ・山本靖久
- ・吉岡友次郎
- ・吉田宏太郎
- ・吉武研司

房日新聞 2018年10月17日付

小谷家の修復、保存のため全国の画家、美術関係者で組織されていた「NPO法人青木繁『海の幸』会」(今年2月に解散)の発起人の1人で、女子美術大名誉教授の吉武研司氏が呼び掛け、旧海の幸会の有志が作品を出品。売上げを記念館の維持管理費として支援する企画。

女子美術大名誉教授で日本美術家連盟理事の入江観氏の「プロヴァンスの古城」、元東京芸術大

館山市布良の小谷家住宅「青木繁『海の幸』記念館」で、青木繁オマージュ色紙展が開催中だ。開館日は土、日曜日、11月11日まで。

館山市布良の小谷家住宅「青木繁オマージュ色紙展」で、青木繁を敬慕する芸術家らの作品が展示されている。開館日は土、日曜日、11月11日まで。

19点の色紙を展示

11月11日まで



展示されている芸術家らの色紙作品＝館山市布良で

教授で、金沢美術工芸大の佐藤一郎氏の「11月11日まで」など全国の画家、美大教授ら芸術家19人の色紙作品19点が並べられている。小谷福哲館長は「こうして引き続き支援をいただきとてありがたい。高名な画家の作品を鑑賞

*** Report ***

新橋有薫酒蔵
高校よせがきノート
30年3,000校を祝う会



九州郷土料理でにぎわう新橋有薫酒蔵は、全国の高校よせがきノートで知られています。30年3,000校を達成し、10月8日には第一ホテル東京で祝う会が開かれました。女将の松永洋子さんは青木繁の孫娘(福田蘭童の娘)にあたり、小谷家住宅の修復に際しては多大なご支援を頂きました。当館の小谷福哲館長や、元NPO青木繁「海の幸」会の大村智先生・入江観先生・吉武研司先生からも駆けつけ、喜びを分かち合いました。新橋駅日比谷口から徒歩2分。ぜひお出かけいただき、母校のノートにご記入ください。

できる貴重な機会で、多くの方に楽しんでもらいたい」と話している。入館料は、一般200円、小中高は100円。

*** 青木繁「海の幸」記念館・小谷家住宅の催し ***

◇ **開館3周年記念・ゴールデンウィークまつり** 4月27日～5月6日 (毎日開館)

*** 寺崎武男 原画展** 会場: 青木繁「海の幸」記念館 & 布良崎神社 (2館共通券) 特別入館料 500 円

青木繁の3年後輩で 1907(明治 40)年に東京美術学校を卒業。農商務省実業講習生としてイタリア留学、ベネチアを拠点にフレスコ画やエッチングを学び、1916(大正 5)年に帰国。山本鼎らと日本創作版画協会を設立し、日本洋画の発展に大きな影響を与えました。関東大震災後に館山へ移住、安房高校で美術教育をしながら、多くの房州神話を描きました。大村智先生も多くの作品を所蔵されています。布良崎神社に鳥居型に額装された大きな壁画やスサノオノミコトの蒔絵作品はじめ、安房神社6枚、相浜神社2枚、白浜の下立松原神社 10 枚が奉納されています。このたび遺族より譲り受けた多数の佳作原画を、青木繁「海の幸」記念館と布良崎神社で特別公開します。100 年前の下絵作品とは思えないほどの筆致や彩色はとても見ごたえがあります。



「大和民族房州半島へ上陸」



「天富命布良上陸」 (布良崎神社蔵)



「祖神を偲ぶ天富命の図」



「祖神を偲ぶ天富命」 (安房神社所蔵)



「大和民族房州半島を進む」



「造船」

*** シーサイドセラピー&浜そうじ** 4月30日(火) 集合 9:00 布良崎神社

平成最後の日、漁村の路地をめぐり、青木繁が愛した神話の舞台・阿由戸の浜で貝殻やゴミを拾い、心を癒し清めましょう。

*** 貝みがきアクセサリー作り** 4月30日(火) 10:30～15:00

参加費 1,000 円 (オプション: 文字彫り 1,000 円)

貝みがきは自分みがき。海からあなたに会いに来た貝に願いをこめて、心ずかに磨いていると、美しく輝く貝殻の層に出会うことができます。一期一会の宝ものを作りませんか。写真(左)は、1931(昭和6)年に昭和天皇が葉山御用邸で採取され、ミタマキガイと命名されました。「心」という文字をニコちゃんマークに刻み、磨いたペンダントです。

